

伊東市総合計画審議会 専門部会（第4専門部会）議事録

開催日時	令和7年11月7日（金）13:30～14:45			
開催場所	伊東市役所低層棟3階第2委員会室			
出席者	<p>(1) 総合計画審議会 第4専門部会委員：7人 竹本力哉 委員、長田直己 委員、西野由季也 委員、日吉直人 委員、石井裕介 委員 村田充康 委員、池田真幸 委員 （欠席：石橋正英 委員） （部会長：村田充康 委員、副部会長：竹本力哉 委員）</p> <p>(2) 市当局 近持剛史 企画部長、中谷祐典 理事、小川真弘 観光経済部長、佐藤文彦 観光課長 川口貴保 産業課長 （事務局：企画課）菊地貴臣 企画課長、鈴木綾子 課長補佐、平山隼人 主査 (株)地域まちづくり研究所</p>			
公開・非公開の別	公開	非公開の場合 はその理由		傍聴人 0人
会議次第	1 開 会 2 審議の進め方 3 第五次伊東市総合計画・第十二次基本計画諮問案の審議（所管部分） 4 その他 5 閉 会			

発言者	発言内容
1. 開会	
企画課長	<p>ただ今から、総合計画審議会 第4 専門部会を開会いたします。</p> <p>まず、諸般の報告を申し上げます。本日の会議を招集申し上げましたところ、止むを得ず欠席する旨の届けが、石橋 部会員からございましたので、ご報告申し上げます。</p> <p>以降の進行は、部会長にお願いいたします。</p>
2. 審議の進め方	
村田部会長	<p>次に、次第2「審議の進め方」を議題とします。本日の審議の進め方について、事務局から説明させます。</p>
事務局	<p>「審議の進め方」についての説明に入る前に、資料の修正をお願いいたします。</p> <p>昨日の第二回審議会において人口ビジョン・総合戦略諮問案についてご審議いただきました中で、令和12年度における目標値を上方修正した指標がありますが、本日の専門部会でご審議いただく分野において、同じ指標を掲げている指標がございますので、総合戦略と合わせ、上方修正をさせていただきたいと存じます。</p> <p>修正箇所を申し上げますので、恐れ入りますが、お手持ちの資料の修正をお願いいたします。</p> <p>まず、100ページの「2 新たな観光形態の構築・推進」における②成果指標の2つ目の項目、『伊東での滞在日数（2泊以上の割合）』です。令和12年度における目標値が「25%以上」となっておりますが、「30%以上」といたします。</p> <p>次に、110ページです。「7 移住定住の促進・関係人口の拡大」における②成果指標の1つ目の項目、『移住者数』です。令和12年度における目標値が「200人以上」となっておりますが、「230人以上」といたします。</p> <p>引き続き3つめの項目の『移住相談件数』です。令和12年度における目標値「500件以上」を「550件以上」といたします。</p> <p>修正は以上です。</p> <p>それでは改めまして「審議の進め方」について説明をいたします。資料1「伊東市総合計画審議会専門部会タイムスケジュール表」をご覧ください。</p> <p>本日は午後4時30分までの会議となっております。概ね午後3時を目安に10分間ほどの休憩をとります。</p> <p>次第3、第五次伊東市総合計画・第十二次基本計画諮問案の審議は「施策分野」ごとに行いますが、施策分野5の1から5の3、施策分野5の5及び5の6、施策分野5の7及び5の8は一括で審議します。</p> <p>お示ししている「予定時間」はあくまで「予定」であり、委員の皆様の審議の状況によって前後します。万が一、積み残しがある場合には、次回の部会に持ち越すこととなります。</p> <p>議題ごとに委員の皆様から事前にいただいた意見に対する回答を事務局から報告した後、協議していきます。ご意見のある方は挙手により発言をお願いします。また、議事録の作成の都合上、お名前をおっしゃっていただいてから発言していた</p>

発言者	発言内容
	<p>だきますよう、ご協力をお願いします。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
観光課長	<p>追加で資料の修正をお願いします。102ページの「③現状と課題、課題」の2つ目、伊豆半島ジオパーク推進協議会との更なる連携強化をすべて削除していただきたいと思います。</p> <p>103ページの「④施策の方針」の1つ目、伊豆半島7市6町を8町に修正をお願いいたします。続いて2つ目、伊豆半島ジオパーク推進協議会について、こちらもすべて削除をお願いします。「⑤基本的な取組」の2行目、伊豆半島ジオパーク推進協議会との連携についても削除をお願いします。右の主な内容について、伊豆半島ジオパークの再認定というかたちにしていただければと思います。</p> <p>こちらは、伊豆半島ジオパーク推進協議会と美しい伊豆創造センターが元々別組織であったものが、伊豆半島ジオパーク推進協議会が美しい伊豆創造センターへ統合したため削除させていただきます。</p> <p>同じく103ページの「⑤基本的な取組」の4行目、その他広域連携団体・組織との連携の主な内容について、静岡県東部スポーツ産業振興協議会を削除してください。こちらは、来年度から県が立ち上げる組織へ移行されるため削除となります。また、新たに「富士山静岡空港利用促進協議会」の追加をお願いいたします。こちらは、都市計画課から観光課へ移管されるため追加とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
村田部会長	<p>ただいまの説明について、ご意見・ご質問がございましたら、ご発言をお願いします。</p>
一同	<p>(意見なし)</p>
村田部会長	<p>それでは、事務局の説明どおりに審議を行ってまいります。</p>
<p>3. 第五次伊東市総合計画・第十二次基本計画諮問案の審議（所管部分）</p>	
村田部会長	<p>次に、次第3「第五次伊東市総合計画・第十二次基本計画諮問案の審議」を議題とします。</p> <p>はじめに、98ページから99ページの施策5の1「地域資源の魅力向上」、100ページから101ページの施策5の2「新たな観光形態の構築・推進」、102ページから103ページの施策5の3「広域連携による誘客の拡充」について、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。</p>
F委員	<p>外国人観光客の交通手段が少なく戸惑っています。タクシーの数が少ないため、伊豆高原駅で右往左往しているのを見かけます。</p>
観光課長	<p>交通事業者の方でも便数を増やすなどしていますが、対応が追いついていないのが現状です。バスだけではなくタクシーも足りていませんが、外国人でも使いやすい取組についてできることから実施することを考えています。</p>
L委員	<p>情報発信の強化という基本的な取組がありますが、個別に言うと大室山にインバウンド客が多く来ていますが、その方たちは他の観光地を周遊しません。先日、川奈ホテルに県知事が来て海外の富裕層向けの旅行促進に取り組んでいました。海外</p>

発言者	発言内容
	の方がどのようにして伊東へ来たのかの分析を強化し、次の施策に反映させることが重要です。発信ではなく、分析も大事なのではないのでしょうか。
観光課長	おっしゃる通りです。現状把握に力を入れていきたいと思います。
F委員	補足になりますが、伊東は畳の旅館が多数あります。中国の方に日本の所作を伝えられるような工夫をし、情報発信とセットにして取り組んでほしいと思います。
村田部会長	<p>一部の高級旅館では、浴衣の着付け、茶道などを体験できる場所もありますが、こうしたことを広げていけばいいのではないのでしょうか。</p> <p>ほかにご意見ありませんか。</p> <p>98ページから99ページの施策分野5の1「地域資源の魅力向上」、100ページから101ページの施策分野5の2「新たな観光形態の構築・推進」及び102ページから103ページの施策分野5の3「広域連携による誘客の拡充」については審議結果のとおり決定いたします。</p> <p>次に、104ページから105ページの施策5の4「商工業の振興」について、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。</p> <p>ご意見ありませんか。</p> <p>ないようですので104ページから105ページまでの施策分野5の4「商工業の振興」についてはこのとおり決定いたします。</p> <p>次に、106ページから107ページの施策5の5「農林業の振興」、108ページから109ページの施策5の6「水産業の振興」について、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。</p>
F委員	106ページの②成果指標について、担い手農業者数を増やすというのは難しいのではないのでしょうか。
産業課長	担い手農業者数の根拠は「認定農業者」であり毎年2人ほど増えているため、成果指標としました。市民農園の活動促進や農業委員会の貸し手・借り手のマッチングなど、なかなか決め手はありませんが地道な活動を進めていきたいと思います。
J委員	現状のところ、106ページ③の4つ目に、農林産物の価格低迷とありますが、資材の高騰も現状の課題として入れてほしいと思います。
産業課長	おっしゃる通りです。現状と課題について反映を検討したいと思います。
F委員	価格は乱高下が激しいですが、資材の高騰は避けられない問題です。
D委員	<p>107ページ⑥行政の1つ目に、ニーズに合った支援策とあるので、しっかりと農林業者の声を聞いていただきたい。</p> <p>さらに、農業をやりたくて移住してくるという方に対して、体験を通じた移住という視点を持ってほしいと考えます。例えば、尾花沢スイカ（山形県尾花沢市）は、親方のところで独り立ちするまで面倒を見るといった施策を講じています。</p> <p>また、109ページ⑥行政の1つ目、水産業のイベント開催支援について、もう少し行政としても力を入れてほしいと思います。観光や移住ともセットとなるので総合的にやっていただきたいという意見です。</p>
K委員	水揚数量の成果指標の現状値の3,452tは、今年は現時点でクリアしています。水産物は観光資源です。いとう漁協ではダイビングサービスをやっており、ダ

発言者	発言内容
	<p>イバーの移住組は現在でも多くいます。お子さんを育てながらのIターンもおり、うちの会社には新卒の大学生もいます。現在、都内に比べ格安で土地を取得できます。首都圏の日帰り圏でこのような場所は無いと思います。観光だけでなく子育て世代も呼び込めるのではないのでしょうか。地魚を扱っている店は、富戸の朝市に毎日来ているだけでも20軒ほどあります。そうした現状をしっかりと把握してもらいたいと思います。よその市町だと観光と水産業はイコールのところが多い状況です。川奈の定置網でも最近ではブランディングを行っており、魚にタグを付けています。小田原、沼津は圧倒的にアクセスが良く、地理的に伊東は不利ですが、伊豆の魚は湘南の魚より人気があります。伊豆は良いイメージがあるからだと思います。農業だけではなく水産業も資材の高騰があり、補助金では追いつかないのが現状です。定置網がこのような集まるところはありません。定置網が多い＝魚種が多いという特性があります。それをブランディングし売り込んでいただきたい。熱海の網代もいとう漁協の範囲であるため、熱海も含めて伊東の魚のブランディングに取り組んでほしいと思います。</p>
<p>観光経済 部長</p>	<p>観光客の来訪理由の一番は温泉ですが二番目は魚です。地域のアイデンティティとして、伊東市が抜きん出るためには重要な要素です。伊豆・いとう地魚王国の加盟店を増やしていくことも重要です。</p> <p>また、小田原、熱海、長泉の住宅地は人気がありますが、伊東市は安くで土地が手に入ります。先日の小学生ふるさと教室では、綺麗な海に入ることができ、伊東の子どもたちはなんて恵まれているんだろうと感じました。将来、子どもたちが伊東に帰ってくるきっかけにもなるのではないのでしょうか。漁業を通じた地域づくりについて引き続きご協力いただきたいと思います。</p>
<p>K委員</p>	<p>本日、1階ロビーで、小学生が考えた地元の産物を使った料理レシピの展示があり感心したところです。</p>
<p>D委員</p>	<p>109ページ⑥市民（漁業者）2つ目に、ブランド価値の向上に取り組むとありますが、他市では民間に任せるだけではなく行政も積極的に取り組んでいます。107ページの農産物と併せて行政としてしっかり行っていただきたいと思います。</p>
<p>村田部会長</p>	<p>他にご意見のある方は挙手をお願いいたします。</p>
<p>一同</p>	<p>(意見なし)</p>
<p>村田部会長</p>	<p>次に、101ページから111ページの施策5の7「移住定住の促進・関係人口の拡大」、112ページから113ページへの施策5の8「国際交流の推進・都市交流の促進」について、委員の皆様からのご意見に対する市の対応を報告願います。</p>
<p>理事</p>	<p>事前にいただいたご意見への回答の説明をさせていただきます。</p> <p>No.1、110ページ④施策の方針の1つ目について、『“幅広い世代の転入はもとより”の部分が必要ないのではと考えます。移住して欲しいのは、子育て世代、現役世代であると思います。“子育て次策をターゲットにした移住を”に修正してはどうでしょうか。』というご提案をいただきました。</p> <p>ご指摘のとおり、移住を期待する世代は子育て世帯や現役世代ではありますが、本市への移住者数のうち、40歳以上の年齢層の割合が非常に高い状況です。これ</p>

発言者	発言内容
	<p>らの現状とご指摘のご意見を踏まえ、『子育て世代や現役世代をはじめ、幅広い世代の方の移住を増加させるための・・・』へ修正させていただきます。</p> <p>No.2、111ページ⑥役割分担市民について、『(先輩移住者)の項目は不要だと思います。ただでさえ分断が表面化してきている為、移住者間コミュニケーションに行政が口出しする必要はなく、地域住民とのコミュニケーション促進にだけ注力すべきかと考えます。行政について、“移住定住促進のため・・・”の部分も修正したほうがいいのではないのでしょうか。“移住定住促進のため”ではなく、“子育て世代、現役世代の移住促進のため”と明確に表記してほしいと考えます。』というご提案をいただきました。</p> <p>①先輩移住者の項目について</p> <p>市が実施する移住相談ツアーなどにおいて、“先輩移住者”によるコミュニティづくりや情報交換等に係る助言などが非常に好評である旨、伺っていることから、現状維持とさせていただきます。</p> <p>②行政の項目について</p> <p>ご指摘のとおり、移住を期待する世代は子育て世帯や現役世代ではありますが、本市への移住者数のうち、40歳以上の年齢層の割合が非常に高い状況です。</p> <p>これらの現状とご指摘のご意見を踏まえ、「子育て世代や現役世代をはじめ、幅広い世代の方の移住定住促進のための・・・」へ修正させていただきます。</p>
村田部会長	<p>ただいま、市の回答を報告いただきましたが、まず、質問された委員ご自身の意見について、補足意見等があればお願いいたします。</p>
D委員	<p>110ページの件は承知しました。</p> <p>111ページの先輩移住者の部分は、移住者同士のコミュニティよりも地域の人との交流が重要であると考えます。地域とのコミュニケーションが重要なのではないのでしょうか。そうしたものを入れてほしいという意図であります。</p> <p>伊東を出て行った子どもたちが戻ってこれるような施策、Iターンを促進するような施策についてもご検討いただきたいと思います。</p>
企画部長	<p>文言については、地域住民の方、昔から住んでいる方など、言葉を再検討したいと思います。</p> <p>移住支援については、補助金がかかなり多く出ています。周知が足りない部分は積極的に行っていきたいと考えます。移住者の半数以上が50代以上です。全体を見ながらも、子育て世代に特化して、交通、不動産、空き家など各課の対策と連携して若者世代が移住しやすい施策を行いたいと思います。</p>
K委員	<p>先輩、という言葉がナーバスに感じます。漁業者になった新卒の大学生には補助が出ます。しかし、首都圏（23区）からの学生には出ますが、関西出身者には出ませんでした。国の施策のため仕方がありませんが、伊豆の国市では現役世代との不公平感が出ないように補助金があります。環境が良くても収入が低ければ生活はできません。伊東市は、宇佐美、伊豆高原、城ヶ崎など分譲地が多数ありますが、移住の人たちだけでコミュニティができると不都合も出てきます。地域の人との交流ができるような場を設けてほしいと思います。</p>

発言者	発言内容
	<p>安価で手に入れられる別荘地ですが、自分たちで選んで住んでいる人に対して、コミュニティバスを通すというのは行政の福祉サービスとしても厳しいのではないのでしょうか。移住者は年齢にかかわらず発信力もあります。ナーバスな問題でもあると思います。</p>
<p>企画部長</p>	<p>移住支援については、23区外からの移住についての支援も検討していきたいと考えています。現在、立地適正化計画を策定中であり、選択と集中といったこともありますので、そうした枠組の中でメニューを考えていきたいと思っています。</p>
<p>L委員</p>	<p>ナーバスということで気を使っていると思いますが、立ち位置を明確にすることによって分かりやすくなると思います。先輩と言わずに、同じ市民でいいのではないのでしょうか。施策の中身はそのままでもよいと思います。</p>
<p>K委員</p>	<p>子育ての施策については積極的に発信してほしいと思います。環境のよいところで子育てできる、しかも東京まで1時間半で行けるということは発信してほしいと思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>移住定住の促進については、教育、産業など分野横断的に行政の中で協議していただきたいと思っています。</p>
<p>村田部会長</p>	<p>では、先輩という表現についてはもう一度精査していただきたいと思っています。</p>
<p>F委員</p>	<p>社会福祉協議会の赤い羽根募金など、地域住民は年金の中からでも500円収めています。しかし、移住者にはなかなか理解してもらえません。新住民も同じ市民として扱わなければ問題は変わらないのではないのでしょうか。その点をお願いしたいと思っています。</p>
<p>K委員</p>	<p>移住者の方々がゴミステーションや上水道についてよく言ってきますが、約50年前の開発行為があった際は、開発したデベロッパーがそうしたことをやるという前提、大きな条件だったと思います。今になって行政サービスが行き届いていないと言うのは、最近、分譲地を購入する人はそうした経緯を知らないケースも多いのではないのでしょうか。</p> <p>決して移住者を排除する意図ではないですが、別荘地への行政サービスが、元々の住民に負担として影響を及ぼしています。</p>
<p>企画部長</p>	<p>担当課としては昔からの経緯を把握していますが、最近越してきたり、代が変わったりすると事情を知らない方も多くなっており、ここ数年、道路、街路灯、ゴミステーションといった要望が出てきています。ある程度線を引かないといけないと考えています。例えば、タウンミーティングでスクールバスの要望などがあります。マスタープランの中で、行政サービスができる範囲を絞っていくことも必要であると思います。</p>
<p>K委員</p>	<p>市長と語る会でも違和感がありました。当局は十分わかっていると思いますが、広大な市域にサービスを行き渡らせるとなると財政が破綻します。移住者も自分で選んで住んでいることを意識すべきではないのでしょうか。</p>
<p>F委員</p>	<p>市にお聞きしたいのですが、民間の水道を市水道にしたのはなぜでしょうか。そうしてしまうと、他の場所も全部市水道にしなければならなくなると思います。どうしてでしょうか。</p>

発言者	発言内容
企画部長	水道の担当がないので断定はできませんが、水道は本来、市が管理しなければならないという立て付けになっていると聞いています。水道施設を修繕してもらったなら移管を受けるというかたちになっています。しっかり整備されていたため市へ移管したと思っています。
F委員	しかし、水が枯れてしまうため、赤沢の水源から上へ、毎日4トン車で5～6回水を上げていると聞いています。ポンプが壊れたのかもしれませんが、市の負担もなかなかの額になるのではないのでしょうか。
企画部長	他の分譲地も老朽化や規格が古いなど水道が一番大きな問題となっており、上下水道部が協議しています。きちんと整備がなされた場合は市が管理するという取り決めとなっていますが、人口減少が進む中、難しい面もあります。
K委員	一か所の分譲地のみやってしまうと、他の分譲地も、となります。ダメなものはダメ。そういう条件でデベロッパーは開発したのではないのでしょうか。嫌でも言わなければならないと思います。恒陽台はやってすいらん荘は出さないでは通らないと思います。最終的に市全体で負担しなければならなくなるのではないのでしょうか。
D委員	市民から意見が出るのも当然であると思います。移住者が来るときに、メリットとデメリットを明確に示すべきではないのでしょうか。別荘地に住む注意事項を記載すべきです。
K委員	デメリットがあるなら、赤沢や富戸の空き家を買ってリフォームする方がよい。そうしたアドバイスも必要です。開発初期の頃はそうしたことはありませんでしたが、ここ近年、移住者からのクレームが増えています。デメリットも発信しながら移住促進を行っていただければと思います。
村田部会長	神奈川で市営住宅をリノベーションした成功事例などもあるので、そのあたりも踏まえて施策を検討していただきたい。
企画部長	分譲地のメリットデメリットも周知していきたい。移住の方については、住宅のリフォーム補助や建築する場合のローン金利補助を行っていますが、地域を絞ってはいません。今、よい意見をいただいたので、コンパクトシティを目指すのであれば、旧市街地に住もうという方にはもう少し手厚く補助を出すといった区別も考えられるかもしれません。
L委員	空き家の利活用も総合計画に盛り込まれるとよいと思います。実際、登録される空き家も使えないものも多くあります。
企画課長	空き家については、77ページから78ページの施策3の5に書いています。
村田部会長	ご意見ありませんか。 ないようですので110ページから111ページまでの施策分野5の7「移住定住の促進・関係人口の拡大」及び112ページから113ページまでの施策分野5の8「国際交流の推進・都市交流の促進」については審議結果のとおり決定いたします。
4. その他	
村田部会長	その他、何かご意見のある方は挙手をお願いいたします。

発言者	発言内容
一同	(意見なし)
村田部会長	事務局からなにかありますか。
事務局	修正する部分等、対応については検討し、12月4日の審議会前に書面(メール添付)にてご確認をお願いいたします。
5. 閉会	
村田部会長	これにて本日の会議を終了します。長時間、お疲れさまでした。